

東レ(3402)



－ 上方修正のたびに保守的になる会社予想 －

東レが10日に発表した上期決算は営業利益が前年同期比46%増の751億円となり上期として過去最高となりました。縫製品や航空機向けの伸びで二桁の増収となった繊維と炭素繊維が5割を超す大幅な営業増益となり成長をけん引し、上期の営業利益は第1四半期に上方修正した金額を60億円余り上回って着地しています。

こうした上期実績を受けて東レは通期の業績予想を上方修正しました。営業利益を従来の1500億から1550億円へと引き上げています。上期予想を上方修正した第1四半期決算に続く上方修正ですが、実は会社予想を上方修正にするたびに反対に保守的な予想になっています。つまり強い実績が出るたびに見通しは弱くなっていくという状況です。

下期の見通しは本決算を発表した時点で860億円でした。しかし、第1四半期決算で上期を上方修正しながら通期予想を据え置いたことで、下期の予想は810億円へと50億円引き下げられました。そしてこの上期決算で通期予想を上方修正したものの、上期がそれ以上に上振れたことで下期の見通しはさらに引き下げられ800億円弱となりました。

これは中国の景気減速の影響が今後で出てくることを警戒してのことです。中国繊維子会社のトップラインの状況から上期にそんな気配はみられませんが、上方修正された通期予想は中国リスクを織り込んでより保守的となった業績予想だといえます。

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会